

たどり急の活動寫眞

及川ふみ

製作の始め 九月二十日

製作の終り 十月二十日

材料

模造紙 全紙 十七枚 五十二錢

水繪具 一箱

泥繪具 半ポンド 二十錢位

板 四分板長さ二間 五十錢

竹 直徑三センチ位の太さ、の長さ七十センチ位のもの二本

繪の材料 幼兒のよろこぶ黒兵衛をこりました。

一、黒兵衛の散歩

二、黒兵衛とお母さん

三、黒兵衛のお家の外

四、白ちゃんご黒兵衛 (一)

五、白ちゃんご黒兵衛 (二)

- 六、白ちゃんを黒兵衛 (三)
- 七、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (二)
- 八、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (二)
- 九、黒兵衛を白ちゃんの散歩 (三)
- 一〇、馬を遊び (二)
- 一一、馬を遊び (二)
- 一二、馬を遊び (三)
- 一三、馬を遊び (四)
- 一四、風船の発見 (二)
- 一五、風船の発見 (二)
- 一六、風船の発見 (三)
- 一七、風船の発見 (四)
- 一八、風船の発見 (五)
- 一九、風船の発見 (六)
- 二〇、風船の発見 (七)
- 二一、お月様のおのぼり (二)
- 二二、お月様のおのぼり (二)
- 二三、お月様のおのぼり (三)

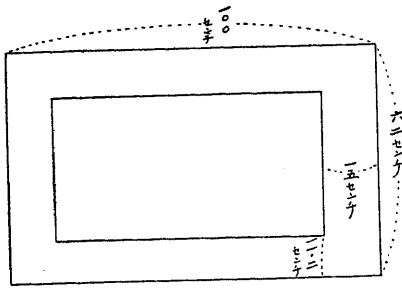
- 二四、月の世界へ旅行の相談 (二)
 - 二五、月の世界へ旅行の相談 (二)
 - 二六、風船のり (二)
 - 二七、風船のり (二)
 - 二八、風船のり (三)
 - 二九、風船の上からお家へお挨拶 (一)
 - 三〇、お月様に近づく (二)
 - 三一、お月様に近づく (二)
 - 三二、お月様にお目見え (一)
- この三十二景を模造紙(縦四三センチ横七九センチの大さ)につぎつぎをかきつらねました。
- 毎日これをつづけてかくわけでもありませんが二枚或は三枚位つづの下繪を保姆が原圖を廓大して用意いたします。そして幼児にその鉛筆の下繪を墨でたぎりながらかかせます。一枚の繪を一人の幼児がすつかりかき上げる日もあるれば又二人三人で一枚をかき終る日もありました。墨でたぎり書きするだけでも、三十二枚の繪を平均二人の幼児がかいたとして六十餘人の手によつてかゝれた事になりま

す。

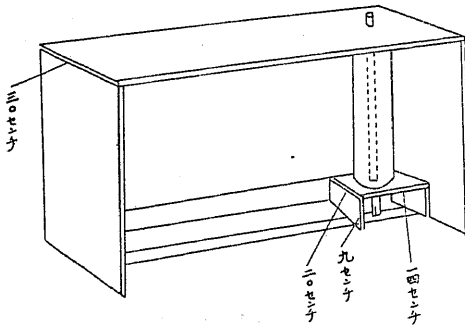
彩色にも、一場面に二人三人の幼児の手がかゝつておりますので、これにもやはり六十餘人で色つけをいたしました。それで線がきこ、彩色も両方ともやうやく満一ヶ月の後に出来上りましたのでこれを順々の場面をはぎ合せました。

舞臺枠

正面



背面



これのおさまる舞臺の製作も、計畫の途中でありますが、幼児は早く見たがりませんし、丁度お月見の日でもありましたのでさにかく中味だけを兩端を竹にまきつけて試寫するこゝろいたしました。

もこゝろ幼児の大層よろこぶ材料でありました上に、幼児がめいゝかいたものが二面も三面も出てくるのでありますから興がる事も一入でありました。

二間の板をほんご無駄なしに別圖の様に舞臺枠が出来ました。

茶色のカゼインを水にこかして、刷毛で全體をぬりつぶしました。かんなのかゝつてゐない板に色をつけるのでよくしみないのですが、つるつるの上に色をぬるのも味のないものですから三度ばかりくりかへしてぬりました。

別圖の脊面圖の竹の心を、下で手で動すのには少々工夫をこらして、まかれた紙が垂れない様に四角な臺をつくりまして繪巻物が下に垂れないで左右とも圓滑にまわる様につくりました。

説明者は舞臺の外に出で、幼児の様子を見ながら説明いたしましたも又舞臺のかけに入つてしてもよろしく御座いますませう。

繪はかなり長いものが面白くてよいのですが一卷が出来

上るのになかく時日もかゝりますし、あまりながくかゝりますし、あまりながくかゝては興味もさめますから適當の長さをえらんで材料さしてなるべく多くの幼児の手によつてつくられる様にいたしたいものであります。

土だより

思ひがかなつて、裏庭の一隅に幼児用畑が組の数だけ出来ました。一體今頃、何植えたらいかしら、と花燦亂の結果ばかり考へて、まごころしてゐる中に、及川さんが手始めで、チュウリップと水仙が池の組用畑に植込まれたのに刺戟されて、どこも〜急に活躍を始めました。まづ土の榮養からと、無暗に肥料ばかりまいてゐる人もあれば、大岩師を顧問に、自分勝手な相談もつゝいたあとで、どうやらどこも落ついて、今は、チュウリップ、水仙、ひなげし、そら豆、えんどう豆、二十日大根、百合、スキートビー、シレンチ、矢車草、などが可愛らしく土を盛り上げて芽を出して來ました。やつぱり、土をいぢるつていゝものねエなど、掌にほんのちよつびり泥をのせて、青空をながめつゝ土の詩人ぶる人、植え込んでから、それは花の咲かない球根だつたと知つて泣きさうになつた人、立札ばかりば、六つの畑を威嚇してゐて、花の方はイマジションでいかうといふスキートビー張りの人、こんな頼りない話のあとで、或る相當な植木商會で、このチュウリップ大丈夫?ときいて、大丈夫とは何がですかと店の洋服さんに関き直られて、あゝ、幼稚園のお仲間ぢやなかつたと、這々の體で店を出た事もございました。

來年の春は、さぞ花も美しく、豆もすゝなりでございませう、楽しんで居ります。

(よじこ)